

実績報告 別記第2号様式 別紙2の  
テーマごとに作成してください。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	キャンディパーク保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

食育

<テーマの設定理由>

当園では苦手食材の克服を目指すという方針があるため、食材への感謝を感じられるように自分たちで野菜を最初から育てる機会を設けた。

### 2. 活動スケジュール

11月：畑を開墾したが土が固くて断念

12月：土を入れ、大きなプランター型の畑を作る

12月：種まき、桜島大根のみプランターで育てたものを土ごと移した

12月～3月中旬：水やり

2月～3月上旬：間引き

3月27日：収穫

### 3. 探究活動の実践

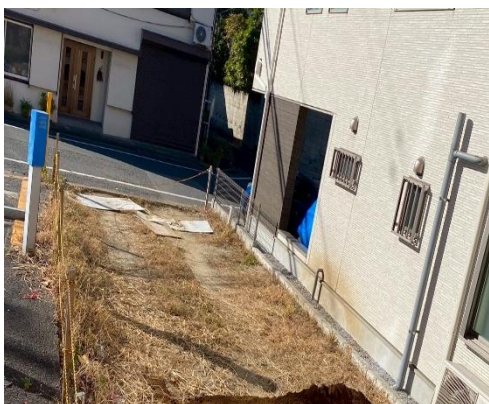
- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・プランター用の土、大根の種、シャベルを用意する。
- ・各活動スケジュールを実施する前はホワイトボードや視覚的にわかりやすい様な工夫をしながら子どもたちとディスカッションしていく。

☆ 土壌作りの前に畑の形を子どもたちと考える様子 ☆



・最初ごぼうも育てたいという意見が出たが、高さが足りないのではという声が出た。

そこでごぼうを横にして育てようという子が現れたが、ごぼう好きの子が少なくごぼう栽培は反対派が多かった為却下された。



・畑を作るために畑予定地に行きみんなで地面を掘って耕そうとしてみたが固くてほとんど掘ることが出来なかった。年長児から大根が埋まるくらいの土を盛れば良いという意見が出ると他の子も賛成したため縦に土を盛りプランターを作る事になった。

**畑作り**：最初に子どもたちと一緒に畑を作る場所の環境を見に行き、元の地面は固く砂利や小石が多い為、畑に変えるのは難しいという意見が多数出た。そこで解決策を集めた所、「地面は掘らずに土をもって大型のプランターを作る方がいいのではないか。」という意見でまとまった。

実際、土を耕すよりも労働力の削減や水はけが良いなどのメリットが多かったため、前述の通り、大型のプランターを作るやり方で畑作りを行った。

☆新しい土でプランターを作る様子☆



**種まき・苗植え**：畑が出来る前に作業を始めた為、一部は小さなプランターから苗を育てて、根を傷つけないように最後に移し替えてみた。ほとんどは畑が出来上がってから直に種まきを行った。

☆桜島大根(図1)と直に種まきを行ったもの(図2)☆



**水やり：**毎週 2 日他の活動の際に畑の横を通る為、子どもたちが水やりを行った。水やりの担当を決める際に全員がやりたがった為、子どもたちに話し合いの時間を設けた。結果、その日の当番がやる事になった。休日や子どもたちでの水やりが難しい日には、園長先生や副園長先生に代わりにやっていただいた。我慢できない子が水やり中に引き抜いてしまったが、間引きとして結果的に良かった。

### ☆子どもや園長先生が水やりをする様子☆



**間引き：**野菜がある程度育ってきたところで、各苗に十分に日光や栄養が届くように間引きを行った。子どもたちは間引きと言う知識がない為、当園 OB の東京農業大学に通う学生に説明をしてもらった。そこではベンチの上に人が立ち、人数を減らすとどうなるのか子どもたちにも協力してもらいながら伝えた。間引いた野菜は、子どもたちに持ち帰ってもらい、家庭の食材にもらった。翌日の連絡帳には「生で食べた」や「みそ汁に入れた」など書いている家庭があった。

### ☆保育者が間引きの説明をする様子☆

数の多い部分(図 1)から何本か間引きを行い(図 2)野菜が十分に育てる環境を作ったうえで栄養が行き届いている野菜(図 3)を差立てていく事を説明した。

図 1



図 2



図 3



☆説明をもとに間引きを行う様子☆



収穫：子どもたちの進級間近に収穫を行った。保育者はまだ大きくなる可能性がある事を伝えたが、収穫したいとの声が約8割あった為、約半分を残して収穫した。一部の大根が菜の花になった為、あわせて収穫した。「残りは種にして来年また育てられるよ」と説明をすると、子どもたちから「またやりたい」との声があったので、種の収穫をする予定である。



## <活動の内容>

### 4. 振り返り

園の近くに畑があるため、戸外遊びの際はできるだけ畑に寄り、水やりをしたり野菜の状況確認を行った。

日々の野菜作りの進展は連絡帳に写真を付けて記入し、保護者への情報共有を行った。一度青戸に猿が出没した際には、脇で育てていたイチゴと少量の野菜が食べられてしまった。再度、猿が来た時には別の食べ物を渡してあげようという子と、やっつけようという子で意見が分かれたが、観察中に猿が現れることはなかった。

今回の野菜作りを経て、普段の給食や家庭での食事であまり野菜を食べない子が、自ら野菜に興味を持ち、食べる姿が見られた。食材への興味を引き出すことができ、苦手食材の克服も出来たためテーマに沿った指導が出来たと思う。

#### ☆野菜を盗みに来た猿☆



#### ☆収穫を一緒に楽しんだ葛飾英雄、世界チャンピオンの内藤大助夫妻☆

